

平成28年度我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事要旨

(1)会議名称	平成28年度我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議							
(2)開催日時	平成28年8月30日 14:00～16:15							
(3)開催場所	我孫子市役所議会棟第1委員会室							
(4)出席者	委員							
	出	山内 智	出	熊田 雅弘	出	大炊 三枝子	出	福岡 正幸
	出	林 健一	出	門脇 伊知郎	出	永嶋 久美子	出	山岸 由紀子
	出	坂巻 弘一	出	岩津 由雄				
	事務局							
	【企画財政部】大畑企画財政部長 【企画課】木下課長、嶋田課長補佐、相良主査長、滝川主任、小嶋主任							
	関係課 【商業観光課】染谷課長、工藤主査長 【企業立地推進課】隈課長、河合主任 【農政課】丸山環境経済部次長兼農政課長、大井課長補佐、小澤主任主事、須田主任主事							
(5)議題	1. 我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について 2. 地方創生先行型交付金対象事業の事業評価について 3. 委員提案の進捗状況について 4. 意見交換 5. 今後のスケジュールについて							
(6)公開・非公開	公開							
(7)傍聴人の数	0人							

(8)会議の内容

1 我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

事務局より資料に沿って説明を行った。

意見等
<p>KPI全般について</p> <p>■ 基本的なことだが、この中間評価はどのように解釈して評価すれば良いのか。(岩津委員)</p> <p>⇒中間評価にある所管課による事業評価をもとにして、有効であったか、有効でなかったかを判断することになるが、一つ一つの事務事業を細かく見ていくというよりも、この主な取り組みが基本的方向に沿った施策の一つとして有効であったかを見ていくということで、事務局もよろしいか。(林委員長)</p> <p>⇒説明が不足していたが、今回の中間評価は一つずつの取り組みについてみていく形を</p>

とることになったが、一つずつの主な取り組みとそのK P Iについて評価をしてもらうというよりも、総合戦略で設定した基本目標があり、目標を達成するための基本的方向に沿っているかどうか、位置付けられた施策にぶら下がる主な取り組みとして方向性が間違っていないかどうかについて議論して頂きたいと考えているのでよろしくお願いしたい。(事務局)

■ 事業評価については評決か何かするのか。(岩津委員)

⇒事業評価については、ホームページでの公開を考えている。また、今回、皆さまに事前評価を頂いているが、本日の会議を踏まえ、会議後に変更がある場合は、変更後の評価を提出してもらおうと考えている。なお、どちらとも言えないという評価もあるが、評価を頂かなかったものについては、自動的にどちらとも言えないということで評価させていただいた。(事務局)

⇒今の事務局の説明を踏まえると、事業そのものの質問だけではなく、施策の方向性も踏まえて確認したいことがあれば、事務局に聞いていただきたい。(林委員長)

No.1「集団化が完了した企業数」

■ 幅広く民間を交えた勉強会や会議などを実施した方が良いのではないかと。現状のNECへの移転交渉には時間もかかるし、もしそこが駄目だった場合の代替地をどうするのかも考えておかないといけない。また、ただ単に市内移転として右から左に移すだけでなく、新たな企業誘致、例えば下請け企業を受け入れていくなどしないと、市としての発展につながっていかないのではないかと。(福岡委員)

⇒現時点で提供できる情報がなかなかなく、目に見えた動きがなかったことから行っていない。しかし、事業者には具体的なスケジュールなどが求められると思うので、勉強会については、具体的にすぐにとということではないが、スケジュールや資金的なものももう少し見えてきてから考えていきたいと思う。(企業立地推進課)

■ 資料3にある市内企業有志の勉強会とは何のことか。(熊田副委員長)

⇒同じく資料3にある工場集団化による情報交換会と同じだと思われる。(福岡委員)

No.9「認定農業者の人数」

■ そもそも認定農業者と普通の農家との違いは。(永嶋委員)

⇒農業者が、サラリーマンの平均年収550万円を目標として作成した農業経営改善計画を市に提出し、市の基本構想に照らして適切なものであるかどうか、農用地の効率的な利用になっているかどうかを判断し、市の認定を受けた者が認定農業者となる。(農政課)

■ 認定農業者になるメリットは何か。(永嶋委員)

⇒施設整備に要する費用として、5分の1の50万円を上限とする金額が5年間に1回補助として使える。(農政課)

⇒5年に1回だと年間では10万円ということ。それはどうなのだろうか。(永嶋委員)

■ 専業農家の全戸に対して、認定農業者になるよう促すなど周知は行っているのか。(大炊委員)

⇒各農家に対してチラシをまくなどの周知は行っていないが、集落ごとに会合があった

際に、制度についてPRを行っている。(農政課)

⇒永嶋委員もおっしゃったように、農業者にメリットを示していかないといけない。農業委員などの役員が認定農業者から選ばれるという現状も踏まえると、高齢化の対策も踏まえた上で若者の就労者を増やすために積極的にPRすることが必要と考える。(大炊委員)

⇒農業者が借り入れる資金に対する利子補給や利用集積に際してのメリットなどもある。(農政課)

- 農業者にとっては計画書を書くのも難しいのではないかと。書いて出してから却下されるということではなく、計画書作成の指導も含め、認定農業者になるためのフォローアップなども行った方がよいのではないかと。(永嶋委員)

⇒認定農業者になりたいという方に対しては、一緒に作成するなどの形で対応している。なお、認定農業者の数は27年度に35人と少し減ったが、直近の8月7日現在では38人となっている。(農政課)

No.10 「農産物の加工施設を有する農業者数」

No.11 「農業拠点施設で販売供給する我孫子産農産物の新開発の加工品数」

- 大学と連携した新開発商品はあるのか。(福岡委員)

⇒昨年度はトマトを使った製品を3種類開発し、県内に限らず、都内など色々な場所で販売を行った。給食にも使えないかどうか調整している。(永嶋委員)

⇒せっかくある資源なので活用しない手はない。(福岡委員)

- 6次産業化の加工施設について、多額の整備費がかかるということだが、水の館を作る予定はあるのか。自前でやるにはハードルが高いため、市の施設を農業者が活用するような展開が出来ないものか。(永嶋委員)

⇒色々な補助があるとは思いがいかか。(林委員長)

⇒色々なメニューはあるが、市では「農畜産物加工販売施設整備等補助金」がある。(農政課)

- 認定農業者の方と加工施設を持つ農業者でダブリはあるのか。(山内委員)

⇒ある。(農政課)

⇒そういう人に補助を厚くすればうまくいくのではないかと。メニュー開発もなく、ただ、加工施設を作れ、販路も開拓しろというのではなく、例えば市がメニュー開発します、販路をバックアップします、ということがない限り、直売所だけでは進まないのではないかと。認定農業者と加工施設の施策を連動させていかないとうまくいかない。例えば加工施設で働く若者の雇用なども生まれてくるはず。単発ではなく、安心安全な品物を食卓に届けていくというプランがないとどうなのかと思う。(山内委員)

- 6次産業化で加工品として開発されたものをふるさと産品にしていくなど、そのあたりの連携がうまくできるとよい。我孫子で作られたものだという事はPRするチャンスだと思う。私たちが販売する時も、お客さんに手にとってもらい、食卓に上がることで我孫子産の品物だということを知ってもらうことの意味をよく考えるように学生には伝えている。試食してもらうことは簡単だが、手に取って買ってくれて、それが毎日食卓に出るということは、価値あることだと思うので、そういうことも視野に入れてふる

さと産品なども作っていければよいと考える。(永嶋委員)

⇒もともとこの地方創生も、分野横断的に考えていくことに意義があると思う。(林委員長)

⇒この場合は、農商工の連携ということになると思う。現在色々と模索しているところではあるが、農業者からの要望と商業者の意見がなかなか噛み合わず、摺り合わせがなかなか難しいという段階にある。今後、一つでも連携した産品ができれば良いという意識で取り組んでいるところが現状である。(大炊委員)

No.13 「学校給食への地元野菜供給量」

- この中に米は含まず野菜のみか。(永嶋委員)

⇒米も含まれている。(農政課)

- 米粉パンを作って提供している学校があると聞いているが、米を細かくするのに労力を使うと聞いている。週3回米を出しつつ、さらに米粉としても出そうと努力をされているのであれば、パン用、麺用の米粉として一括で安く買えるよう、ひと手間かけて加工品として供給はできないのか。(永嶋委員)

⇒現在は、学校給食コーディネーターにより、あびこんと調整して仕入れを行っている。加工品としても、ニーズがあれば検討する必要がある。(農政課)

⇒栄養士さんによると、JA東葛ふたばに栄養士さんがまとめてkg単位で注文しているため、農家単位ではなく、農協でまとめて出荷している状況である。なお、その場合の米粉は我孫子市産と聞いている。(大炊委員)

- ここについては、指標が量であるため、減少という評価になっているが、良い取組であると思う。評価についても何かご意見はあるか。(林委員長)

⇒児童・生徒の数の減少もあるし、天候によっても供給量の変化は出てくるため、供給量としての数字を上げるのも必要かもしれないが、地元農家の野菜を供給し続けることの方が大切なのではないか。(大炊委員)

No.18 「相互連携事業の取り組み数」

- 私たち川村学園女子大学とアビシルべまつりとの連携など、スポット的にやっているものはこのKPIには該当しないのか。(永嶋委員)

⇒スポットで実施しているものについては承知しているが、このKPIについては、事業として継続するものについてカウントすることとしている。スポット的なものについては数字には表れないが、事業評価のところにつけ加えるなど考えていきたいと思う。(事務局)

No.38 「病児・病後児保育の年間延べ利用件数」

- 保育士の採用が出来なかったことで利用件数が減っているということが目に見えているが、保育士の募集については、事業者にお任せなのかどうか。市はどこまでコミットしているのか。(山岸委員)

⇒何回も採用要件を変更しながら継続して募集を続けていたが、東葛管内でも保育士の争奪戦が繰り広げられている状況のため、市としてもバックアップの体制はとって

いるが、採用には結びつかなかった。(事務局)

⇒今、保育士不足が叫ばれている中、保育士に対する処遇が悪いということもあるのかとは思いますが、病児・病後児保育は必要なものであると思う。ニーズは高いとは思いますが、一方で、病気にかかっている子供を他に預けてまで働きに出なければいけない社会環境はどうなのかという側面もある。(坂巻委員)

⇒色々な立場やお考えはあると思うが、ひとり親家庭の場合でも収入の面など色々な事情があるため、安心して預けられるという環境は大事。在宅で病児・病後児をみてる専門的な保育士も求められる。とても大きな問題であると捉えている。(山岸委員)

⇒我孫子市ではファミリーサポートセンター事業において受け入れ枠を拡大しており、病院への送迎も含め、病児・病後児へのバックアップをしている。(事務局)

No.50 「高齢者在宅支援事業等利用者数」

No.51 「高齢者なんでも相談室への相談件数」

■ 健康な高齢者が多くなれば相談件数は下がるはず。支援を要する人が増えてきているのであれば、それに対応する数字として評価する必要がある。そのため、どのように評価すべきかが難しい。遅延として評価しているものかどうか。(永嶋委員)

■ 介護支援制度が始まる前から始められているサービスもあるため、重複しているものなどについて見直しをする必要があると考えている。(坂巻委員)

■ 色々な支援メニューがあって、これが介護保険の範囲内なのかどうか、高齢者の人は自分がどこに該当するかわからない。相談することの難しさがどうなのかと、相談した後にどこに向かっていくのかを評価しないと何とも言えない。(山岸委員)

⇒相談件数2万件とかなりの数のアウトプットであるが、相談した後に解決に向かっていくのかが示せないとわかりにくい指標なのかもしれない。(林委員長)

⇒介護保険との絡みがあるが、現行で介護保険にスライド出来ている人と出来ていない人がいるという課題がある。また、所得が低い、一人では手続きがなかなか出来ない人などに対しては、市として支援する制度を残す必要がありながらも、民間で出来ている部分は民間を活用してもらう等の見直しを行っているところである。

相談件数については、地区によって内容が様々だと聞いているが、主に、市のサービスはどのようなものがあるのかとか日常的な困りごとなど総合的な内容が多いとのこと。そのため、個々の相談についてはケアマネージャー、どこに相談しているかわからないものは相談室に相談しているというのが現状である。(事務局)

No.53 「協定救急病院への救急搬送率」

■ この指標もNo.50と同じで解釈が難しいと思う。ここの指標の考え方はどう解釈すればよいか。(林委員長)

⇒救急コール数は年々我孫子市も増えている。高齢化に伴い、さらに増えていくことが考えられ、先ほど説明したとおり病床数を増やしていくことで、対応する数を増やしていくことが可能になると考えられる。現時点では、そこに対応できていないということで、そこを目標として設定している。(事務局)

2 地方創生先行型交付金対象事業の事業評価について

事務局より資料に沿って説明を行った。

意見等

- 意見、質問特になし。

3 委員提案の進捗状況について

事務局より資料に沿って説明を行った。

意見等

- 意見、質問特になし。

4 意見交換

今回初めての中間評価であったため、評価・検証の手法や今後の会議運営についてご意見を頂きたい。また、今回K P Iの数値として遅延と判断した25 K P I以外についてもご意見があればここで聞きしたい。(事務局)

意見等

- 地方版総合戦略としてどうあるべきか、どのような評価をしていくべきか議論いただければと思う。(林委員長)
- 市内には我孫子ゴルフクラブがあるが、これは地域資源の活用にもつながると思うが、そこで来年開催される日本女子オープンに対する市の取り組みはどうなっているのか。(福岡委員)
⇒来年は第50回の日本女子オープンが開かれる。9月6日にプロジェクトチームによる第1回目の会議を開催する準備を進めている。平成21年度に第42回の大会が我孫子で開催されていたが、今回はオール我孫子として取り組めるよう市民・団体からもメンバーを募集している。市としても出来るところから始めていきたいと考えている。(商業観光課)
- 市民の関心度が見えないので、次回、もしできれば中間評価を行ったこれらの施策についての市民の関心度のようなものが見えてくると、こちらとしてもやりがいを感じられる。当然、市民に浸透している事業としていない事業があると思うので、その中身が分かると良い。(山内委員)
- 今日の会議の中間評価に係る意見交換を受けて思ったことだが、果たして、会議後に評価を変更できるのかどうか。なかなか難しいところがあるなというのが正直なところ。各個別のテーマごとに機会を設けて深掘りしないと、せっかく集まった2時間をもったいなかったと感じている。各管内の縦の動きはそれぞれよく理解できるが、それが横にどういつながりをしているのかどうかは、この施策の状況からは見えてこない。

例えば、雇用に関しては企業立地だけでなく、農政ともやりとりできると思うし、子育て支援のところでもうまい具合にできるのではと思う。その辺でフォローアップ・改善が出来てくるという含みがあれば、恐らく今回の評価も有効な方向に向かっているという判断も出来ると思うが、今回のやり方だと会議後の評価を変えるほどの材料になったのかどうかは疑問が残るところ。(熊田副委員長)

⇒施策やテーマごとに議論してもいいのかもしれない。(林委員長)

⇒専門外のことはなかなかわかりづらいこともあり、それを全員体制で聞かれてもなかなかすぐには回答できないこともある。専門的なテーマをそれぞれで議論しつつ最終的な報告を全員いる中で行うというやり方も考えられるのではないか。(大炊委員)

⇒今回は初めての検証ということもあり、来年度以降の改善に向けてPDCAサイクルを回す意味でも、次につなげる形にしてはどうか。私も熊田副委員長とともに、事務局の相談には応じていきたい。(林委員長)

⇒今回の皆さまのご意見を踏まえ、次年度以降、効果的な評価・検証の手法となるよう引き続き委員の皆さまとご相談させていただきたい。(事務局)

5 今後のスケジュールについて

事務局より、今後のスケジュール及び次年度以降の予定について説明を行った。

意見等

- 意見、質問特になし。